

民生委員・児童委員の活動を発信!!

Well ウェル おおさか

26
2012.2

特集

＊吹田市民生・児童委員協議会＊
地域住民との協働による
福祉ボランティア活動

◎イキイキ ハツラツ

民生委員・児童委員さん

松原市民生委員児童委員協議会

民児協だより

池田市民児協／交野市民児協

柏原市民児協／忠岡町民児協

東大阪市民児協



＊吹田市民生・児童委員協議会＊

地域住民との協働による 福祉ボランティア活動

民生委員・地区福祉委員・ボランティアと協働で
高齢者への見守り活動や子育て支援を実施。



無縁社会や高齢者の孤独死、児童虐待といった問題が増加し、地震や水害などの自然災害も相次いでいる今、安全で安心なまちづくりのために、住民同士の助け合いや支え合いがますます重要になっています。民生委員・児童委員の活動にも大きな期待が寄せられる中、地域住民との協働で福祉ボランティア活動を行っている吹田市民児協の取り組みについて紹介します。



地域住民とともに 福祉ボランティアグループを結成

JR千里丘駅にほど近い、吹田市の南山田地区は長く住み続けている住民が多く、一人暮らしの高齢者も150名ほどいます。この地域を対象に活動している吹田市民児協の山二地区委員会内の南山田小学校区においては、地区福祉委員会や地域住民が協働して福祉ボランティア「あいあい」を結成し、一人暮らしの高齢者を対象とした見守り活動やサロン活動、子育て支援などを行っています。

こうした取り組みが行われるようになったのは、平成14年10月に「孤独死を防ぎたい」と小地域ネットワーク活動について勉強したことがきっかけだったといいます。平成15年1月から手探りの中、見守り活動をスタートし、現在まで活動が続いています。「あいあい」のメンバーは現在、民生委員・福祉委員を含めて29名。「民生委員活動の一環として、月1回は必ず一人暮らしの高齢者宅を訪問していますが、それに加えて毎週こうした見守り活動を行っているのは、吹田市内でも数少ないと思います。活動を始めて、もう9年ほどになりますから、すっかり浸透しました」と、吹田市民児協の山二地区委員会内南山田小学校区の民生委員・児童委員代表であり、また同地区福祉委員会委員長でもある小山章氏はいます。

民生委員さんの声

留守の場合は
カードを投函し、
見守りに来たことを
お知らせしています。





高齢者との交流や子育て支援のために さまざまな活動を展開

福祉ボランティア「あいあい」では、一人暮らしの高齢者を対象とした見守り活動をはじめ、さまざまな活動を展開しています。「ふれあい昼食会などで高齢者の方は楽しんで交流されているようです。わたしたちも顔を見ると安心します」と委員の一人は語ります。

見守り・声かけ運動



南山田地区にはおおむね150名の一人暮らしの高齢者がお住まいです。見守り・声かけをするにあたって、まず訪問回数を毎週か隔週か希望をお聞きし、実情に応じて「あいあい」のメンバーがお宅を訪問。安否の確認やお話を伺い、孤立や孤独死の防止に取り組んでいます。2〜3名のチームに分かれて対象者宅を訪問しており、こういった様子だったか訪問記録をつけることで変化はなにか確認しています。

また、各地域で「見守り支援チーム」を作り、日頃から近所の方にポストに新聞が溜まっていたり、雨戸が閉まったままの場合には民生委員に連絡していただく体制を整備しています。緊急時にはお互いに助け合えるよう、訪問活動を続けています。



いきいきサロン



南山田地区は、勾配のきつい坂が多数あり、高齢者にとっては移動が難しい場合があります。そのため、いきいきサロンは1カ所ではなく、長野地域・尺谷地域・桤切山地域・千里丘西地域の4カ所で実施し、高齢者が参加しやすいように工夫しています。催し物は各会場の責任者・ボランティアのアイデアで行っており、カラオケや歴史の勉強会、ビール工場の見学、調理をしながらの食事会、保育園児との交流会、お菓子作りなどを年間34回開催しています。



民生委員さんの声

私たちも顔を見ると安心。
いきいきサロンの
ご案内もしています。

くすの木会（ふれあい昼食会）



くすの木会は、一人暮らしの高齢者を対象とした昼食会で、年4回実施しています。開催は4月、7月、11月、2月で、その時期に応じてお弁当の種類をお花見弁当にしたり、寒い時期には熱々のおでんを注文するなど、皆さんと楽しめる昼食会を心がけています。

昼食後は全ての参加者が楽しく遊べるさまざまなゲームを実施。和気あいあいとした雰囲気の中、楽しい昼食のひとときを過ごしています。



子育てこあらちゃん（フリースペース）



子育てこアラちゃんは、毎月第2木曜日に地区公民館において開催している子育て支援のイベントで、0歳から未就学児を対象に親子で楽しい遊びを行っています。毎月30組の親子が参加されており、12月には地域の保育園と協賛でクリスマス会を実施。親子合わせて200名以上が参加されています。



さまざまな活動を通して、交流や助け合いの輪が広がる

見守り活動などの取り組みを始めて以来、日頃から各家庭の様子に気を配るようになったという民生委員のみなさん。一人暮らしの方が倒れておられるのを、その日のうちに発見し、救助したケースもあったといい、孤独死も減少してきたそうです。また、最初はいきいきサロンなどの参加を拒否されていた方も、見守り活動で何度か声をかけているうちに参加されるようになったそうです。

小山氏は「地域のボランティアさんの数を増やして、このまま活動を継続していきたいと思っています。また、地域全体にもっと活動を広げたいです」と今後の意欲を話しました。

民生委員さんの声

地域みんなで見守っています。
ちょっとした変化にも
気を配るようになりました。

「なかなか外を出歩く機会がないので、皆さんが訪ねて来られるのがうれしい」と高齢者の方。「あいあい」の皆さんと一緒に記念撮影しました。



民生委員・児童委員が活動しやすくなるために



PT(プロジェクトチーム)会議の様子

キッズフェスタ
での親子体操



第5回 ～豊能町民児協～

現在、さまざまな福祉課題や制度改正などにより、民生委員・児童委員活動も多様化・複雑化していることに加え、関係機関からの協力依頼も増加しており、活動上の大きな負担となっています。今回は、活動の多忙さ解消を目指して、各種団体との役割分担や協力体制の改善に取り組む豊能町民児協取材しました。

課題 検討

活動の多忙さの解消をめざす

□ アンケートで各委員の意見を集約

豊能町民児協では、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりの一貫として、活動の多忙さの解消を目指したプロジェクトチームを平成22年5月に発足しました。

役員や地区委員長などで構成されたプロジェクトチームでは、各委員が活動について実際、どう感じているのかを調査しようと、アンケートを実施。「やりがいはあるが、それに比例して忙しさが倍増する」「兼任している地域福祉委員の活動との両立が難しい」「趣味の時間がなくなった」などの意見が多く寄せられました。この結果を受け、一人で問題を抱え込まないように懇談会などで委員同士の交流を深めたり、ベテラン委員やOBがアドバイスする機会を設け、状況改善を図っています。

□ 関係機関・団体との協議を進める

アンケートと並行してプロジェクトチームでは、① 社協、地区福祉委員会との役割分担 ② 関係機関との連携のあり方 ③ 行政関係事務の簡素化 ④ 緊急時の警察や救急、消防との連携という4つの検討項目を掲げ、関係機関・団体との協議を進めました。

地区福祉委員会とは、見守り活動での連携が決定。「福祉委員から細かい情報が入り、とても助かっている」と森安会長。早速成果が表れているようです。また、行政、社協、町民児協で構成された三者連絡会では、事務の簡素化や情報の共有化について検討を進めています。

今後も、さらに関係団体との連携を深め、多忙さの解消を目指すということです。

災害時

要援護者支援

避難模擬訓練を実施

豊能町民児協では平成23年4月、災害時要援護者支援避難模擬訓練を豊能町、社会福祉協議会、消防署、東ときわ台小学校の協力のもと実施しました。民生委員が要援護者役と援護者役に分かれて、要援護者を実際に救急車で運ぶなど、本番さながらの訓練となり、避難の大変さを実感するなど、貴重な経験となったようです。

平成22年の一斉改選により51名中21名の民生委員・児童委員が入れ替わり、経験の少ない委員も多いことから今後もこうした訓練や研修などに取り組む予定です。



ストレッチャー
を使った訓練



段差に注意
した誘導

全国民生委員 児童委員大会&活動交流会

～新青森総合運動公園・マエダアリーナで開催～
**全国から約3,000名の
 民生委員・児童委員が参加しました!**



● 式典 平成23年10月27日

1日目の式典では全国民生委員児童委員連合会の天野隆玄会長が民生委員・児童委員として被災地、また全国で果たすべき使命、役割を明らかにしました。

また表彰式の後、青森県出身のプロスキーヤーでクラーク記念国際高等学校校長の三浦雄一郎氏より「絆 忘れちゃいけませんか 大切なものを人生の最高峰に向かって得たもの」と題した特別講義がありました。講義では「どんなことがあっても諦めない気持ちで夢をかなえる」と、75歳

● 大会宣言

一、東日本大震災で被災された人々と地域の復興のために、全国的に支援を行うとともに、福島原子力発電所事故の風評被害に対する各地での正しい理解が得られるよう働きかけます

二、全国各地での災害時に、要援護者を地域住民や関係機関とともに支え、地域で助け合える社会づくりとしての防災活動を実践します

三、相談・支援活動を強化し、高齢者・障がい者・子育て家庭など、支援を必要とする住民の見守り、誰もが安心して生活できる地域ネットワークづくりを推進します

四、児童・高齢者、障がい者の虐待予防・早期発見・早期対応とともに、犯罪被害から守る防犯活動を推進します

五、基本的人権についての理解を深め、個人情報等の取り扱いなど常に活動を見直し、住民や関係機関・団体との信頼関係に基づく活動を進めます

六、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりとして、関係制度の充実を図るための取り組みを、各市町村、各都道府県指定都市、全国で推進します

にして世界最高峰のエベレストに2度目の登頂を果たした経験が語られました。会場からは「何歳になっても情熱を持ち続けて日々挑戦することが大切だ、勇気と感動をもらった」と共感の声があがりました。

式典の最後には震災復興や原発事故の風評被害に対する理解が得られるように働きかけるとするなど6つの大会宣言が採択されました。

● 活動交流会 平成23年10月28日

2日目は10テーマの活動交流集会が実施されました。活動交流集会10では四條畷市より「民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりのため」にテーマに事例発表がありました。

まずコーディネーターの駒澤大学准教授川上氏より「無縁社会や孤立・孤独死等の地域課題が複雑・深刻化する中で民生委員・児童委員への期待が高まる一方、活動の多忙さや負担感、個人情報問題から活動しにくいという課題がある。専門機関・施設の専門職や福祉委員等のキーパーソンと協働することで地域活動の活性化をすすめることが課題解決につながる」とお話がありました。

つづいて四條畷市民協石原会長は「四條畷市では推薦のあり方からフォローアップ体制、協働促進、PR活動等に総合的に取り組みを進めていること。民児協が主体となり活動しやすい環境をつくりながら関係機関と連携し制度をよりよく充実したものに改革していくことが重要だ」と発表し会場では活発な議論が交わされました。これらを基に今後各府内の取組みがますます広がること



活動交流集会の様子



活動強化月間
(一斉取り組み)の様子

能勢町民児協 活動報告

平成24年度
月番民児協

関係機関や他団体との連携、協議をしながら、
活動の輪を広げ、原則全員参加の活動を展開

月番民児協は大正9年に始まり、
当時は大阪府内の方面委員が互いの活動について知り、事例検討などを
通じ研鑽を図ることを目的に月1回、
当番となる方面(地区)を定め開催
されました。現在は年1回当番民
児協の事業や活動を府内の民生委員
が共有する機会として開催されて
います。

今回は、平成24年度の当番となる
能勢町民児協の活動について、ご紹介
していただきます。

能勢町は、大阪府の最北端に位置
する京都府と兵庫県に囲まれた土地で、
町の面積(98.68km²)のほとんどは、
山林と田畑。ゆるやかな山並みを背景に、
山裾に家々が集まり、その周りに田畑が
広がる「里山」の町です。縄文時代には、
すでに人々が暮らし、「日本書紀」に「
摂津国狭々村」の古名で登場しています。
人口12,041人、世帯数4,699世帯の町
ですが、行政と住民が一体となって「ふれあ
いと生きがいのある町・のせ」と地域の福祉
力向上を目標に頑張っています。

我々、能勢町民生委員児童委員協議会
は、主任児童委員5名を含む総勢48名で、
関係機関、他の団体と

の連携、協議の上、活動の輪を広めています。
地区担当委員の区別なく、原則全員参加を
モットーに活動しており、役員会は月一回、
次の月に民生委員児童委員協議会定例会を
開催しています。

当協議会は、総務企画部会、地域福祉部会、
児童福祉部会、主任児童委員部会、広報部会
の5つで活動しています。

総務企画部会は、本協議会の企画、調整、
予算の執行、各関係機関との連絡調整を行い、
協議会全般の円滑な運営に従事しています。

地域福祉部会は、「災害時一人も見逃さない運動」への
取り組みとして、各家庭に調査票を配付、地区担当
民生委員が回収後4区分に分け、緊急時に支援が
必要な方を把握し、町全体の福祉マップを作成し
ました。マップは、行政と社協、民生委員が各一部
を保管しており、3年に一度更新します。また、年
一度開催される「能勢町ふれあいフェスタ」にも
積極的に参加しています。

児童福祉部会では、社協と共催で「子育てサロ
ン」を月2回開催しています。能勢町地域子育てセ
ンターの保育士を講師に迎えた研修会も

行い、ボランティアとの交流も行っています。
管外研修として福祉施設の見学と交流会も開催しています。

主任児童委員部会では、子育てサロンに研修参加しているほか、また町外関係機関との
連絡、研修会、勉強会に、地域教育協議会や学校協議会の開催する
連絡会、勉強会にも参加しています。町内の学校にも
月に1回、巡回訪問を行っています。

広報部会では、広報誌に関する取材活動や、年1回の
民児協広報誌「ささゆり」を作成、協議会内容として「
ほほえみ」を随時作成しています。

以上、各部会の活動を紹介しましたが、社協と行政との
連携のもと、各事務局の協力を得ながら活動しています。



京都市
市民防災センターでの
研修の様子



子育てサロン
「にこにこ」の様子

各市町村民生委員児童委員協議会では、地域に暮らす親子を支援するためにさまざまな取り組みを行っています。今回は、松原市民生委員児童委員協議会が年に1回実施している「ちびっこひろば」の取り組みについて、民生委員のみなさんの感想や反省点なども交えながら紹介します。



民生委員・児童委員さん

●松原市民生委員児童委員協議会●

地域の親子が楽しく遊び、交流できる
イベントを開催

「無事に終了してよかった」と話す
坂本光世会長



親子のための
秋の恒例イベントに

平成23年10月22日に松原市立市民体育館にて、「第3回ちびっこひろば」が開催されました。これは子どもと子育て家庭を支援するまちづくりをめざした活動の一貫として、親子が楽しく遊び、リフレッシュするとともに子育ての悩みを相談できる場を提供するものです。

この事業は、平成21年に大阪府から子ども関連の事業に対する補助金を受けたことをきっかけにスタート。「一度みんなイベントをやってみようという話になり、企画したところ、地域の皆さんからとても好評で、継続して開催しています」と、「ちびっこひろば」を担当する妻屋慶子副



会長。スタートから3年、松原市全域から多くの親子が参加する人気イベントとなっています。

多くの参加者が
集まり、当日は大盛況

今回「ちびっこひろば」を開催するにあたって、市内各地域でポスターを掲示したほか、市の広報でPRしました。また、民生委員が市内の保育所や幼稚園へ出向き、子どもたちに来場を呼びかけました。当日は子ども332名、保護者229名と合計561名もの人が会場に集まり、大盛況。「2〜5歳児を中心

「皆さんの力がすご
いと感じた」と語る
妻屋副会長



「ちびっこひろば」
の中心メンバーとし
て活動された、役員
や各地区の代表の
皆さん



に、下は生後2カ月の赤ちゃんか
ら、上は弟と一緒に来た10歳の
子どもまで、多くの参加者が来
場されました。近所同士で連
れ立って参加された方も多かつ
たです」と妻屋副会長。休日
を家族で楽しもうと来場された方
が多かったようです。

会場では、松原市の各6地区
および主任児童委員がそれぞれ
輪投げや万華鏡づくり、バールン
遊び、絵合わせジグソーなど、日
頃から各地区の子育て支援事
業で行っている遊びを持ち寄り、
子どもたちが多彩な遊びを楽し
めるように工夫しました。人形
劇団クラルテを招いて人形劇を
上演したほか、母親たちのおしゃ
べりコーナーや、子育て支援セン
ターと松原市地域保健課による
悩み相談コーナーなども設置。
最後には参加者全員でアンパン
マン体操を実施しました。

改善点を検討し、
よりよいイベントに

後日、開催された反省会
では、各委員からさまざまな声

寄せられました。「マイクの音声
が聞こえにくかった」といったこ
とから、「おしゃべりコーナーで小
さなお子さんを預かったが、寝か
せるスペースが無く、抱いたまま
だった。来年はベビラックなど
を用意した方がいいのでは」
「ゲームコーナーでは最後、景品
の数が足りなくなりました」
景品を渡したらスタンプを押す
といった工夫が必要」など、次
年度の開催に向けて多くの改善点
が上げられました。

また、イベントを通して子育て
に悩む母親が気軽に相談できる
機会を提供することで母親同
士のコミュニティ形成にもつな
がっており、松原市福祉部福祉
総務課の山中武雄氏からは「民
間主導でこうした活動をされて

いることは、私たちにとっても大
きなメリット。民生委員の皆さん
の日頃の活動の成果だと思いま
す」と行政側も大きな期待を寄
せている様子がうかがえました。
「楽しいイベントなので、ずっと
開催してほしいという声をいた
だいています」と妻屋副会長。市民
の方にも定着している「ちびこ
ひろば」。次年度以降、さらに充
実した内容となるよう、各委員
が真剣に取り組んでいる様子を
垣間見ることができました。



松原市民児協が毎年10月
の第3土曜日に開催してい
る子育て支援イベント「ち
びっこひろば」は今回で3回
目を迎えました。民生委員手
作りのおもちゃを使った遊び
など、当日は子どもたちの笑
顔があふれていました。



民児協だより

池田市

「高齢者の安否確認に関する条例」の制定施行
↳ 民生委員・児童委員と

地区福祉委員が協働して確認調査

一昨年は「高齢者の所在不明問題」が顕在化し、大きな社会問題となりました。

池田市ではこれらの解消のため、全国に先駆けて「高齢者の安否確認に関する条例」を制定施行し、民生委員・児童委員や地区福祉委員も協働する形で安全安心なまちづくりを前進させました。その概要をご紹介します。

高齢者の所在不明問題に対して池田市では、急速90歳以上の高齢者約1000人の所在を調査した結果、不明者が4人あったため、65歳以上の高齢者全員の安否を確認する条例を制定。調査は民生委員・児童委員と地区福祉委員が担うことになりました。

しかし、調査対象者リストは「個人情報」であり、調査員に交付可能が問題視されました。検討の結果、池田市と調査を担当する民児協および社協が「民生委員・児童委員および地区福祉委員は、個人情報を適切に取り扱う」旨の覚書等を交わすことでクリアしました。

池田市民約10万人の内、65歳以上は約2万3000人ですが、最近1年以内に「医療保険や介護保険等を使用した方は安否確認済み」として除外すると、確認対象は3500人あまりにまで絞り込まれました。

調査は、75歳以上の292人を民生委員・児童委員が、74歳以下の3230人は地区福祉委員が分担して行うことになりました。

確認活動は、対象者リストを見ながら行いますが、高齢者の中には地域のサークル活動や買い物などでも挨拶を交わしている方から、全く知らない方までさまざまでした。調査を進めていくと「届けられた住所に不在、不明である」などの現実遭遇。私たち民生委員・児童委員や地区福祉委員の立場での調査には限界があり、「不明者301人」を市に報告しました。不明者は市で再調査され、最終的には76人となりました。

今回の調査では在・不在の確
認にとどまっていますが、私たち

高齢者安否確認調査結果

安否確認 調査団体	対象者 区分	左の該当人員数		左の未確認者について 池田市の再調査の結果	
		当初の 調査人数	左の内 未確認者数	確認 できた	未確認
池田市 民児協協議会	75歳 以上	292	61	52	9
池田市 社会福祉協議会	65～ 74歳	3,230	240	173	67
合 計		3,522	301	225	▲76

(注2)「当初調査人員」は「対象者から最近1年以内に国民健康保険等を使用した人を除いた人数」です。

引續典類考

65歲以上142人安否未確認

津田市中間結果 転居先不明など

[illegible]

はさらに「歩踏み込んで」支援の要否は……？」などの状況確認をして、活動につなげていくことが大切であると考えています。なお、住民は常に変動しており、当調査は今後も継続して半年ごとに実施されます。

池田市民児協
企画運営委員会



各ブロックごとにこれらの担当者を
選出



車いすの方や
聴覚障がい
の方も参加

民児協主催で災害研修

交野市

10月、市長をはじめ、市議会議員、行政関係者、地域住民などに多数参加していただき、2部構成の災害研修会を開催しました。

佛教大学の後藤至功先生をお招きし、第1部は映像を交えての講演で、災害時における要援護者支援のあり方や、震災後現地で見えてきた課題などについてお聞きしました。

第2部はホールを避難所と見立てての実施訓練を行いました。会場にブルーシートを敷き詰め、通路で6ブロックに仕切り、周囲に運営本部、男女別更衣室、トイレ、福祉避難所、支援物資置き場を設けました。6班に分かれた参加者が避難者として各ブロックに入り、まず避難者名簿を作成。その後、避難所での世話役(総務や食料班など)を選出。各班に対しての運営本部からの指示(物資や食糧配給、避難者への伝達事項等)に従って動くという訓練でした。

最後に後藤先生から「日頃から絆が強い地域は災害時にも強い。本日を機に、災害にも強い地域づくりの輪をさらに広げてほしい」とのコメントがあり、3時間余りの研修を終了しました。参加した方々からは、大変好評をいただいた研修でした。

交野市民児協
広報部会



いろんな状況の人を想定して動きました



一度ここで寝てみましょう

民児協だより



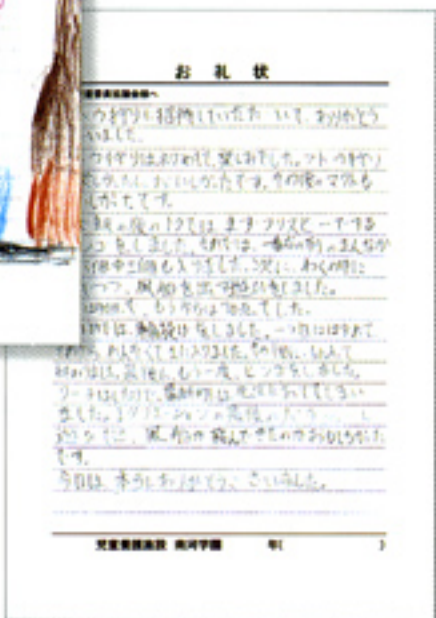
柏原市

施設児童招待事業

柏原市は、大阪府の南東に位置し、奈良県との県境にあたります。地域は自然がまだまだ残り、山間部が多く、特産品としては「ぶどう」が有名です。柏原市の民児協は西戸進会長のもと、民生委員133名と主任児童



児童養護施設の子どもたちから届いたお礼の手紙に、喜びもひとしお。



委員10名の計143名でさまざまな問題、日々の活動に取り組んでいます。

古くから取り組んでいる事業としては、市内にある児童養護施設の子どもたちとのふれあいを求め、地域の特産品を生かすためにも施設の児童を「ぶどう狩り」に招待し、楽しい1日を過ごしていただいています。秋の一日、毎年天候を気にしながらの事業で、担当者はてるてる坊主をつるしながらの準備に胃の痛くなる様子です。

平成23年度は9月18日に実施。当日、日本列島は東と西から2つの台風に挟まれ、心配されましたが、何とか雨も降らず無事決行されました。市内には2つの養護施設があり、南河学園からは職員含め45名、もう一つの武田塾からは24名、当協議会からは会長はじめ児童部会の部員、協議会の事務局員など20名余り、そしてレクリエーション協会からの応援10名を含んだ100名ほどが参加して行われました。

幸い当事務局の所在地自体が周りをぶどう畑に囲まれた場所で、地域のぶどう畑のオーナーの理解もあって、すぐ近くの畑でぶどう狩りを行えました。初めての体験だという子どもたちも多く、キラキラと眼を輝かせながらハサミを手にしていました。小さな子どもたちは大人の手を借りて、たわわに実ったぶどうを刈り取ってすぐに口へ運んでいました。一人で食べきれず友達同士で分け合う子、何房も頬張る子どもも見られ、楽しい時間を過ごしました。場所を移動して、事務局のホールでは食事とレクリエーションを実施。食事子どもたちが一番楽しみにしているハンバーガーでした。

子どもたちの歓声の大きさに癒された一日でした。後日、子どもたちからお礼の手紙と絵が送られてきました。何点かご紹介し、報告に代えさせていただきます。

柏原市民児協



寒中・暑中
見舞いハガキ

「キラキラコンサート」の様子



救急医療情報キット



忠岡町

みんなでつくろう 夢・希望・感動あふれるまち

東日本大震災を受け、平成23年4月より忠岡町いきがい支援課が一人暮らし高齢者の実態把握を行ってまいす。この調査は民生委員・児童委員がかねてから行っていた調査の把握率を少しでも上げるため、役場の調査員に民生委員・児童委員が同行し、担当地区ごとに調査を行うものです。同時に、最近話題の「救急医療情報キット」の配付も行っています。

また、毎年寒中・暑中見舞いハガキを一人暮らしの高齢者に発送するという活動を15年以上継続しています。

児童委員活動としては、町内の幼稚園（3カ所）を対象とした交流会を行い、平成20年度には「キラキラコンサート」と題して、絵本を題材にしたクラシックコンサートを

行い、母と子のふれあいを深めるための活動も行っています。

子育て支援活動の一環として行っている保健センター事業「お母さんの勉強室」では、研修中のお母さんがしっかりと勉強できるよう、小さなお子さんの預かりを実施。研修後には、お母さんたちとの懇親も図ります。

研修事業としては、「邑久光明園」や民間刑務所「美弥社会復帰促進センター」を訪問し、民生委員・児童委員として資質向上のための自己研鑽を行い、活動への活力としています。

また、8月には、日本一小さい忠岡町が日本一元気な町を目指すため、その先導役を担うイメージキャラクター「ただお課長」が誕生しまし



忠岡町イメージキャラクター
「ただお課長」

忠岡町民協
会長 奥田 ヒサ子

た。民生委員・児童委員活動の際には、私たちと共に活動してくれる機会が増えそうです。私たちが力を合わせて、顔が見える温かみのある地域福祉活動を丁寧に行うことが一人ひとりの元気につながることを考えています。



「邑久光明園」での研修事業



あえて特筆するまでもなく、民生委員・児童委員の使命は、地域福祉の向上努力であり、それに向けての参画度数や熱誠は社会的厚生を増加と大いに相関します。近時の重要任務の一つは、高齢社会における見守りや援助活動です。府内のみならず、全国的に災害時一人も見逃さない運動が展開されていますが、東大阪では福祉部や社会福祉協議会、民児協が一体となり、高いレベルで「寝たきり」「一人暮らし」「高齢者世帯」の把握が進められています。また、地域安全センターも

各公民分館に順調に設置されつつあります。今回ご紹介するのは、府内どの地区でも11月3日前後に開催される公民分館の「文化祭」の風景です。東大阪は枚岡、河内、布施市の3市合併の経緯により、東、中、西公民館の傘下に30の公民分館と5カ所の分室があります。文化祭は、老、壮、青、小と一体になった活動で、幼稚園長や中学校長も参加。写真で公民館横の公園でお餅をついているのは小学校長です。各種団体全てと民生委員・児童委員も参加して、お年寄りを大切にしながら、100年の繁栄のために地域の子どもを育てる情景が広がっていました。

東大阪市民児協

民児協だより

東大阪市民児協

地域社会と民生委員・児童委員の関わり



つきたての餅をまるめる父兄と地域の人々



長瀬西小学校長と民生委員・児童委員

河南ブロック 合同研修会

民生委員・児童委員活動と 地域包括支援センターの 連携の推進を目指して

11月16日、藤井寺市において「平成23年度大阪府民生委員児童委員協議会連合会 河南ブロック合同研修会」が開催されました。

研修会では、まず藤井寺市における地域包括支援センターの役割や機能を知るために行った民児協との懇談会など、連携の基盤整備にむけた取り組み報告がありました。このような連携の成果として民生委員が独自で取り組んでいる高齢者実態調査で把握したニーズを地域包括支援センターと連携することで解決できた事例など、具体的な成果の報告がありました。一方で、例えば認知症の方への支援については本人や家族に対するアプローチと同時に、その地域住民の理解促進が重要になるなどの意見が出され、役割分担などが確認されました。

この合同研修会を契機に、河南ブロック全体として民児協と地域包括支援センターの連携がさらに進むことが期待されます。



詳細な資料をもとに事例報告が行われました

主任児童委員の動き

平成23年度全国主任児童委員研修会(西日本)概要報告

8月8日・9日に神戸市「シーサイドホテル舞子ビラ神戸」にて全国主任児童委員研修会が開催され、大阪府からは9名の主任児童委員が参加しました。講師として明治学院大学副学長の松原康雄氏にご登壇いただき、「児童委員の推進と主任児童委員の役割・関係機関等との連携・共同活動の強化」というテーマでお話いただきました。

講義の中ではネットワークの3類型について説明があり指示待ちの「傘型」、機関連系へ依存した「ヒトデ型」、ネットワークを活用した「くもの巣型」の3類型のうち、一番の理想となるくもの巣型に近づけるように取り組んでいく必要がある、またネットワークを絵にかいた理想でとどめずにそれを動かす存在が必要だと説明がありました。

また主任児童委員は民児協の会長と協働して地域課題に取り組んでいくこと、児童相談所、市町村、関係機関と民児協、当事者をつなげていくことで支援が受けやすい地域作りに取り組んでいくことが期待されるとまとめられました。

近畿ブロック府県・指定都市民生委員児童委員 関係事業会議概要報告

10月21日・22日に京都市「京都ロイヤルホテル&スパ」にて近畿ブロック府県・指定都市民生委員・児童委員関係事業会議が開催され、大阪府から正副会長、副部会長、主任児童委員代表の計13人が参加しました。全体会の後に分科会が行われ、第3分科会では「民生委員・児童委員、主任児童委員の活動基盤及び活動環境について」というテーマで主任児童委員の位置づけや待遇等に関する各府県の取り組み状況について情報交換を行いました。地域課題が増大し民生委員活動が多忙になる中、その一方で手不足等の問題を抱えていることが共通の課題でした。その中でも奈良県では民生委員・児童委員を地域で知ってもらえるように小学校の教科書に「民生委員の役割」を紹介し活動のきっかけづくりとしていると発表がありました。



表紙の作品と作者

●社会福祉法人 わかくさ福祉会●

わかくさ 高槻市

障害者作業所のみなさん



手漉きの和紙にプリントされたマトリョーシカのイラストがかわいい便せんや封筒。平成21年度の大阪府授産製品コンペティションで「審査員特別賞」を受賞したこれらの商品は高槻市にある「社会福祉法人 わかくさ福祉会 わかくさ障害者作業所」のみなさんが作られているものです。

わかくさ障害者作業所では、^{がんぴ}雁皮や^{こうぞ}楮を原料とした手漉き和紙づくりに取り組んでいたものの、和紙を使った商品はカレンダーのみ。この和紙を使って何か新しい商品ができないかと支援員で検討し、生まれたのが、このマトリョーシカのシリーズでした。デザインを担当しているのはスタッフの塩見佑子さん。「最初はレターセットとメッセージカードくらいだったのですが、今では天使やティーカップのイラストのものや、ポチ袋など季節に合わせていろいろな商品展開を考えています」と、さまざまな用途を企画検討されているようです。



プリント、糊づけなど、役割分担して作業しています。



利用者さんそれぞれが協力して作業を進めています。マトリョーシカの形に紙を一気にカットする姿にびっくり。「スタッフより上手です」とのこと。

作業は24名の利用者さんが紙漉き班と和紙を加工するクラフト班に分かれて進めます。紙漉き班は、スタッフと一緒に利用者さんが手際よく紙漉きを行っていました。一方、クラフト班は、和紙にイラストをプリントする人、紙をカットする人、糊づけをする人など、それぞれが担当する作業を進めていました。「利用者さん同士協力して役割分担してくれています。職員が指示しなくても自発的に作業していますよ」と塩見さん。どの利用者さんも慣れた手つきで作業されていたのが印象的でした。

便せんや封筒は、法人主催のバザーなどで販売しているほか、近隣の学園祭や手作り市などに出品されているそう。メールもいいですが、時にはお気に入りの便せんを使って、手紙に想いをしたためてみませんか。

＊お問い合わせ先＊

〒569-1136

大阪府高槻市郡家新町
48番2号

TEL.072-695-5566

FAX.072-695-5579



編集後記

東日本大震災や原発事故、台風12号など、思いもよらない災害に直面するなか、この経験乗り越え民児協活動にどのように活かしていくかが今後求められています。まだまだ寒い日が続きますがお体ご自愛ください。

Well ^{ウエル} おおさか

vol.26
(通巻60号)

発行日：平成24年2月

発行：大阪府民生委員児童委員協議会連合会

事務局：大阪市中央区中寺1-1-54 大阪府社会福祉協議会内

TEL.06-6762-9486 FAX.06-6762-9487

URL <http://www.osakafusyakyo.or.jp/minkyo/>



この冊子は再生紙を使用しています。